



福王寺だより

今年は何が多い夏になりましたね、コロナウイルスも身近になり、世界情勢も変化し、中々落ち着かない年であります。

こんな中でも、思い合い、助け合い、当たり前の中に幸せを感じる一日でありたいと願います。

変わりゆく人間関係

先日、「人それぞれが寂しい」という本を読みました。現代社会をわかりやすく紐解いており、印象に残ったものを一部抜粋させて頂こうと思います。

「迷惑をかけてはいけない」

私たちは「個人主義」の社会となり、「人それぞれ」の立場を尊重する時代であります。この個人主義の社会でも「他者を攻撃する行為」は許されません。

「人それぞれの社会」で特徴的なのは、「人それぞれ」の行為を「社会への迷惑」というセンサーで監視するシステムを作り上げたことです。

かつて、私達の生活は身近な人と共同・協力することで成り立ってきました。生活をしていくためには、血縁や地縁と協力することが、何よりも重要でした。

その後、経済的な豊かさを獲得し、一定の資産がない人を救う社会保障制度が整えられると、身近な人と共同する機会は格段に少なくなります。

私たちの生活は、身近な人間関係のなかではなく、お金を使うことで得られる商品、サービスと、行政社会保障にゆだねられているのです。

この点についてはつぎのように言い換えることができます。「私たちが



生きていくためには、お金を稼ぐことが何よりも重要です。しかし、どうしてもそれが出来ない人は社会保障制度をお使いください」。

私達の生活は、このような仕組みで成り立っているのです。

自らお金を稼いで、そのお金を使うことで生活を維持する社会では、誰かに頼ることが難しくなります。というのも誰かに頼る行為は、お金を稼ぐ努力の放棄や怠慢を意味すること、つまり、人の手を煩わせる迷惑行為となってしまうのです。

社会や他者に迷惑をかけた人は、激しく攻

撃されます。「迷惑」というセンサーで、個々の人を監視する社会でもあるのです。

どうでしたでしょうか？

自粛警察も話題になりましたが、少しでも迷惑をかけると恐ろしい時代でもありますね。インドでは、こういう言葉があるそうです。

「あなたは人に迷惑をかけて生きているの

だから、人のことも許してあげなさい」

迷惑をかけるなんて当たり前！ 繋がりでこの世界はあるのだから、迷惑をかけても、かけられても、対応できる力が大事だと教えられるそうです。

本音を言い合っても、受け止められる関係

って良いですね。

そんな、大らかな場になると良いな。

行事のご案内

「秋彼岸会」

九月二十三日 十時

於 津別町福王寺

※北見別院工事のため、彼岸参り中止します。

※ご遠方で、当日お参り出来なく、ご廻向希望の方は同封の振替用紙をご利用下さい。

来年4月八十八カ所参りありますよ！

ぜひご参加ください！

